

5月24日に全職員を対象に接遇研修を開催し、約300名の職員が参加しました。

今年度は、女優の原千晶様をお迎えし、『患者が安心して安全な医療を受けるために—2度の子宮がんを体験して—』と題してご講演いただきました。原様の子宮がん発症時から現在に至るまでの経過を、症状や治療、ご自身やご家族の思いを含め、包み隠さずお話しくささいました。

原様のお話を伺いながら、医療者として日常的に実践していることや“当たり前”と思っていることが、患者さんやご家族にとっては非日常であり、医療者の言葉がけや対応の一つ一つが患者さんの気持を軽くもし、不安にもすることを改めて学びました。

また、医療者は知識があるが故に「これぐらいなら大丈夫」と過信することがあるため、検診を受けることの大切さを感じました。



看護部次長 高田としみ